【PV】

空
「おらぁ！！！
誰がチンポ隠していいっつった！」

美
「はーい♪
全部脱ぎ脱ぎしましょうねー♪」

空
「んー？
オマエ、またボコられたいの？」

美
「うふふ。

泣いても終わらないよー♪」

空
「ふー。　（ため息）
相変わらず小っさいなあ。」

美
「くすくす。
見て見て♪

この子ｗｗｗ
薄いお汁をポタポタ垂らしてるｗｗｗｗ」

空
「うはははははｗｗｗｗｗ

オマエｗｗｗ
何それ？

ションベン？
精液？」

美
「それとも？
マゾクリが潮吹きしちゃったのかな？」

空
「んー？
『チンポから射精した』？」

美
「あはははははははｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

空
「あはははははははｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

美
「くすくすｗｗｗｗ
面白い事を言う肉便器ね♪」

空
「オマエにチンポなんて生えてねーからｗｗｗｗｗｗ」

美
「この小っちゃいのはね？
ペニスじゃなくて、マゾのクリトリス♪
マゾクリなのよｗｗｗｗ」

空
「おら、言ってみろよｗｗｗｗ
オマエのマンコに生えてるのは何だ？

マｗｗ　ゾｗｗ　クｗｗｗ　リｗｗｗ　だよなぁ？ｗｗｗｗｗ」

美
「んー？
泣いたら甘やかして貰えるとか思ってる？

くすくす。

ねえ、オマエのケツマンコの裏に生えてる、それｗｗｗｗ

何かな？」

空
「あはははははｗｗｗｗｗｗｗｗ

そっかそっかｗｗｗｗ

その短い出っ張りはマゾクリって言うのかｗｗｗｗ」

美
「あらあらｗｗｗｗｗ

この子のマゾクリから、また薄いお汁が漏れてるｗｗｗｗｗ」

空
「うはははははｗｗｗｗｗｗ

何？

オマエ、アタシらの極太チンポにレイプ漬けにされるのがそんなに嬉しいの？

嬉しいんだ！？ｗｗｗｗｗ」

美
「くすっｗｗｗｗ

オマエの淫乱ケツマンコ♪

こんなになってるよ？ｗｗｗｗ」

空
「あはははははは！！

おいおいｗｗｗｗ
どんだけ期待してんだよｗｗｗｗｗ

オマエのマゾアナルｗｗｗｗｗ
もうグチョグチョじゃねーかｗｗｗｗ」

美
「あらあらｗｗｗｗｗ
お尻フリフリして、もうおねだり？ｗｗｗｗｗ」

空
「最近の精液便所は積極的だねえｗｗｗｗ」

美
「うふふ。
私達の大きくて逞しいペニスを見せつけられて♪」

空
「コイツの中のメスマゾが目覚めちゃったみたいだなｗｗｗｗ」

美
「うふふ。
ねえ、マゾクリ♪

私達の巨大ペニスが欲しいの？」

空
「アタシらの極太チンポを早くブチ込まれたいのか？」

美
「うふふ。
でも残念♪」

空
「これはPVプレイつってな？
本編と違って何もして貰えないんだよなーｗｗｗｗｗ」

美
「くすくすｗｗｗ
ひょっとして、ここで輪姦して貰えるとか思ってた？」

空
「あはははははｗｗｗｗｗｗ
残念だったなあｗｗｗｗｗ

アタシら今から
向こうで愛を深め合う予定なんだわ♪」

美
「気が向いたら本編に呼び付けて二穴レイプしてあげるから♪
それまでここですすり泣いてなさい」

空
「ん？
切ないのかー？ｗｗｗｗｗ
じゃあ、そのマゾクリ摘まんでろよｗｗｗｗｗｗ」

美
「でもね？
ケツマンコは勝手に触っちゃ駄目だよ？」

空
「オマエのケツマンコやクチマンコは、アタシら専用のザーメンタンクだからな。」

美
「うふふ。
もどかしい？」

空
「いい子にしてたら本編に呼んでやるよ。」

美
「それまでは…
おねだりの練習をしてなさいｗｗｗｗｗ」

空
「可愛くケツを振れたら…
御褒美チンポでヨガり狂わせてやるから♪」

美
「うふふ。」

空
「あはは。」

美
「あははははははｗｗｗｗｗ」

空
「あははははははｗｗｗｗｗ」

01. 「格差」

空
「よーし。兄貴。
とりあえず、着てるもん全部脱げ。」

美
「くすっ♪　お願いしますね、お兄さん。」

空
「……ん、何固まってんの？」

美
「仕方無いよ、クーちゃん。
お兄さん、免疫なさそうだし。」

空
「ああ、コイツ非モテ君だからなー。」

美
「くすくす。」

空
「オラ。　脱げや。」

美
「まあまあ。
自分だけ脱ぐのは抵抗あるでしょうから…
先に私が脱ぎますね♪」

空
「え～？　兄貴如きにそんな気遣いいらないんだけどなぁ……。
ま、いいか。
アタシも脱ぐの付き合うわ。」

美
「クーちゃんの、そのブラ可愛い。」

空
「ありがと♪　あんまりアタシには似合ってないんだけどね。」

美
「そんなことないよ！
可愛い。」

空
「ははは。
サンキュ♪」

空
「さ、アタシらは脱いだぜ」

美
「次はお兄さんの番ですよ。」

空
「ん？　何驚いてんだよ。
美憂にチンポがついてることか？
そんなの大したことじゃないだろ。
私にだって付いてただろ？
昔の事だから覚えてないか？

最近の子はチンポついてる子多いよ？
まあ、知らなくても仕方無いか。
ブサオタの兄貴には縁のない話だしな。

ほら。
はよ、脱げや。」

美
「くすくす。
お兄さんってオタクなんですか？」

空
「顔みりゃ解かるしょｗｗｗ
アニメとか漫画とかでしかオナニー出来ない、キモオタ君だよ。」

美
「ふふ。
そこまで言っちゃ可哀想。」

空
「ん？
『いきなり好意を示されても困る』？

うはははははｗｗｗｗ
コイツ、夢見過ぎｗｗｗ」

美
「クーちゃん、どうしたの？」

空
「いやぁ～、兄貴の奴がさぁｗｗｗ
美憂から好かれてるって思ってたんだってさ。

オマエのその顔で、どんだけ自信あるんだよｗｗｗｗ

違うんだよ兄貴♪
美憂の目当てはオマエじゃなくて、オマエのチンポなんだよ！」

美
「まぁ、うふふっ。
ごめんなさいね、お兄さん。
勘違いさせちゃった？

私の恋人はクーちゃんだけですから。」

空
「な～！
　私たちの間に入り込める奴なんていないって♪
毎日、美憂とアタシは愛を深め合ってるんだぜ！

でな？
今日のプレイは、いつもと趣向を変えて、オマエのでっかいチンポも混ぜようって話になったんだ。

それでオマエを呼び出したんだわ。
兄貴にしたって、別に悪い話じゃないだろ？」

美
「ふふふ。
今日は、ちょっと贅沢に兄妹どんぶり♪
昨日からワクワクしてたんですよ。」

空
「んー？
何、モゾモゾしてんだよ？

オラ、手で隠すな。
とっととチンポ見せろや。

よーし、素直だ♪

どれどれ？

…え？」

美

「え？」

空
「嘘……、だろ？」

美
「えっと、小さい？
え？
それ…　ペニスですよね？
え？」

空
「小さい、なんてもんじゃねえよ！
アタシらの十分の一もねえじゃねえか！
はああ！？
えええええ？
マジで？　　マジか？
ごめん美憂！　アタシの勘違いだった！
兄貴のチンポってガキの頃見てたきりで…
まさか、全然成長してないなんて思わなかったんだよ！」

美
「え、いや。
クーちゃんのせいじゃないよ！

クーちゃんのお兄さんだからって…
私が勝手にクーちゃん並の大きさのペニスを想像してたの」

空
「はぁ……。

…マジ、ゴメン。
この埋め合わせは必ずするから…

それにしても…

はぁ……。

どうしよっか、今から。」

美
「…。

せ、せっかく来ていただいたお兄さんにも悪いですから、少しは楽しみましょう。

そうだ！
お兄さん、私と兜合わせしませんか？
私、あれが大好きなんです。

お兄さんを楽しませてあげられると思うんです。

ん？
遠慮せずに勃起させて下さいね。」

空
「ご、ごめんな美憂。すげえ気ぃ使わせちゃって……。
マジゴメン。

おい兄貴！
折角、美憂が言ってくれてんだ、早くその租チン立たせろよ！

……何？

え？

はぁ！！！！？？？？

そ、それで立ってんのかよ！？

は？　マジで？」

美
「え？
ウソ？

こ、これで勃起してるんですか？

？？？？？

え？
じょ、冗談ですよね？」

空
「ウサギ小屋のウサギの方がまだマシじゃね？」

美
「あー、でも。
言われて見れば、かすかに上向きなような……
そうでもないような…」

空
「いやいやマジかよぉ……。

ファ！？

何？
『美憂の勃起チンポが大きい』？

ばっか野郎！
美憂もアタシも全然立ってねえよ！！！！！！　」

美
「はぁ……」

空
「ああっ、ごめん！
ごめん美憂！

オマエちょっといい加減にしろよ？
美憂の前で恥かかせやがって！！

みゆー。
ホント、ごめんねー。」

美
「…クーちゃんは全然悪くないから。

ねえ、お兄さん。

まあ、せっかく来て頂いた事ですし。
一応兜合わせしましょうか？

とりあえず。
そのペニスを擦り付けて、私を勃起させて下さい。」

空
「おう。
あくしろよー。」

美
「……あの、お兄さん。
もうちょっと、力を入れて下さらないと…」

空
「お～い兄貴、気合が足んねえぞ。
オマエ如きが美憂と兜合わせさせて貰えるなんて、普通はありえないんだからな。
もっと亀頭とか押し付けて、刺激しろよ～」

美
「お兄さん。
もう少し堅く出来ませんか？
ちゃんと勃起してくれないと、兜合わせになりませんよ。」

空
「何っ！
兄貴のは立ってんじゃねえの？
なんかフニャフニャしてない？」

美
「わ、私も少し驚いてるの。
勃起しても、この程度の硬さにしかならないペニスもあるんだ。

…と言うより。
お兄さんが押し付けてくれてるのって、皮ですよね？

いや…
亀頭同士じゃないと兜合わせの意味ありませんよね？」

空
「おいおいっ！
もっと必死にやるしかねえだろ！
チンポだけじゃなくて、体全体を使えよ！

オラッ！！　　ちゃんとケツ振れや！！」

美
「…お兄さん。
もうちょっと腰をくねらせてみましょうか？

お兄さんにとって一番気持ちいい動かし方で構いませんから…
せめて私を勃起させるぐらいは頑張ってくださいね」

空
「お、激しくなった…　のかな？」

美
「んっ、ううん……」

空
「どう、美憂？」

美
「少しはマシになったかな？　それに…」

空
「それに？」

美
「いい歳をした立派な男の人が、年下の私に涙目で必死で奉仕する…

悪い気はしないかな。」

空
「…いや、そいつ全然立派じゃねえから。
でもよかった〜。
本当美憂は優しいよね。

あ、そうだ、今日のお詫びに、そいつ美憂にプレゼントするよ。
性欲処理用の使い捨てオナホとして使ってくれたら嬉しい。」

美
「え、でも……」

空
「いいっていいって！
兄貴は他に使い道のないゴミだし、美憂の役に立てればアタシも嬉しい。」

美
「あんっ、そ、そう言われても……」

空
「だ、だよね。
いくら美憂が優しいからって、そんなキモい奴いらないか。」

美
「いらなくなんかないよ！。
私、クーちゃんのプレゼントなら、何でも嬉しい！
大事にするから。」

空
「ホント？
気を遣わせてごめんね。
そう言ってくれると、こっちもホッとするわ。

おう、良かったな兄貴。
オマエ、今日から美憂のオナホ便器な。

オラッ！！
チンポ止めるんじゃねーよ！！！
殺すぞ！

粗チン擦り付けて、美憂に奉仕するんだよ！！」

美
「んんっ♪
お兄さん。
そのまま、続けてくださいね。

くすくす。

そう、もっと、もっとこすりつけて、押して……

うふふ、いい感じですよ♪」

02. 「勃起」

美
「ふぅ……。
頑張りましたね、お兄さん。
偉いですよ。」

空
「お、おおおっ……。
美憂、すげえじゃねえか。
よくこんな短小チンポ相手に勃起したな！」

美
「うふふっ。
お兄さんの必死さが伝わってきましたの。
時間はかかりましたけど、初めてですものね。
そこは仕方ないです。」

空
「はぁあっ……
そ、それにしても、いつ見ても美憂の勃起チンポ…　すごい…
あ、駄目。
そんな凄いの見せられたら」

美
「あらあら。
クーちゃんのペニスが一瞬で……
今日は一段と逞しくて素敵。
それに、野性的な香りがする♪」

空
「はは、なんか恥ずいな。
美憂の本気チンポ見ただけで、すぐこんなになるなんてさ。」

美
「うふ。
私は嬉しいよ。
クーちゃんって私のペニスが大好きだもんね♪
私に抱かれてないと生きていけない身体になっちゃったもんね♪

ほら、クーちゃん。

こっちに、おいで。」

空
「…うん。」

美
「うふふ。
ほら、お兄さん。

妹さんと並ぶと、サイズの違いが歴然ですね♪

それに、お兄さんのペニスｗｗ
小刻みに震えちゃって…

ん？
怯えてるの？」

空
「あー。
こうやって改めて見比べると…
マジで粗チンだな。

兄貴はキモブサなんだからさぁ…
せめてチンポ位は人並みであって欲しかったんだけどな…
…オマエ、マジで長所ないな。

おい、兄貴。
ちょっと、美憂の横に立ってみろよ。

ん？
勝手にチンポ隠したらボコるよ？」

美
「まあ、うふふっ……」

空
「いや～。
やっぱ美憂のチンポは何時も見ても立派過ぎるわぁ。

やばい、マンコ痙攣して来た…
アタシ、美憂になら何されてもいいわあ。

こうやって兄貴のゴミチンポと並べると、圧倒的だよね。
美憂のは角度からして違うんだよ。

美憂のデカチンはへそに付きそうなくらい反り上がってるのに…
兄貴のは…

ゴミだな。

ま、美憂のに比べればアタシのチンポも全然だけどな。」

美
「えー。
そんな事無いよ。
クーちゃんのペニスって、亀頭がゴツゴツしててとっても素敵。

私もアソコがジュクジュクしてきちゃった♪

ねえ、お兄さん。
お兄さんも、そう思いませんか？

クーちゃんの亀頭♪
カリの段差が凄いでしょ。
色も赤黒くて…　　あぁ…　切なくなってきちゃった。

…それに比べて。
お兄さんのペニスって…

うーん。
それって、ただの短い皮ですよね？」

空
「あははっ、短い皮ｗｗｗｗｗ
超ウケるわ～それ！
でも、本当さ、スゲエよな、美憂のチンポ……

あ…　マジでヤバい…
もう、駄目かも…
美憂のチンポ、凄すぎ…
匂いが脳にガンガンくるわ。」

美
「クーちゃんのだって、とっても勇ましくって……。
本当に素敵！

ねぇ、クーちゃん。
兜合わせ…　　しよ。」

空
「うん。
アタシも我慢出来なかったの！
何時もより…　　滅茶苦茶にしてね？

…兄貴
ジャマ。

目障りだから、そこで土下座しとけ。」

美
「ああ、お兄さん。
見学してもいいですよ。
本物のペニス、見た事ないでしょ？」

空
「ん。
オマエ邪魔。」

美
「ん、はぁあ……」

空
「ああ、やっぱ……。
凄いィィ！

美憂のカリがどんどん尖がって…

ああ！！！」

美
「ああ、うぅん……。
　クーちゃんのペニス、ゴリゴリッてぇえ……。
　ね、腰に手を回して？」

空
「うん。」

美
「ふうぅうんっ……。
私のペニスがクーちゃんのペニスに押し潰されて……
きもちぃいっ！」

空
「んああっ！　ひんっ！
か、感じるぅ……。

亀頭がスゲエ刺激されて…
こっちは全力で押し付けてるのに…

美憂の弾力で簡単に跳ね返されて…
す、すご…

アタシなんかとは格が違い過ぎる…

み、美憂っ！
き、キス、していい？」

美
「もう、そんなの聞かないで、ぇ……」

空
「……ふぁあ、あぁ、駄目ぇ
美憂のキス…

しゅごすぎィ…」

美
「クーちゃんのキスもすっごく上手よ。
私、おかしくなりそう…

…あッ！
お願い…
それ以上は…」

空
「だ、だって美憂も、私の腰掴んでるじゃん！
ああ、ゴリゴリ、
んぐうううううう…
ぎもじよずぎいいいいい…」

美
「ね、ねえクーちゃん。
　私、もう駄目。
一度、イカせて…」

空
「ええ！？
中に出してくれなきゃ嫌だよぉ」

美
「ふぅうんッ！

あ、後で幾らでも中出ししてあげるから…」

空
「んんんっ！
ぜ、絶対だよ？

んッ！！！！！

う、嘘…
美憂のチンポ、どんどん硬くなってくる…
ああぁ、駄目、アタシ、きもちいぃっ！」

美
「んっ！　あっ！　だ、だめぇ！
い、イク、きちゃうっ！」

空
「ふぅっ！　はぁあんっ！
みうううううううぅっ！」

美
「……はぁ、はぁ……。
　や、やっぱりクーちゃんとの兜合わせは最高……」

空
「……あああぁぁぁぅ」

美
「はぁ、それにしても……。
　ちょっと二人で出し過ぎちゃったね。
床が真っ白♪」

空
「はあはあ。

ふうう。

アタシは多分、マンコでもイッてると思う。

ごめん、美憂。
床汚しちゃって。」

美
「謝る事なんてないよ♪
部屋にクーちゃんの匂いが付くなんて、とっても嬉しい！」

空
「ん？
ああ、兄貴居たのか？

オマエ、ちゃんと床の精子舐めとけよ。
アタシのマン汁も飛び散ってると思うから、それも全部拭きとっとけ。」

美
「あら。
素直ね。」

空
「たまにボコって仕込んでるからね。」

美
「うふふ。
お兄さん、そうなんですかぁ？
妹さんに躾けられてるの？
くすくす。」

空
「コイツ、立ち姿はキモイんだけど…
四つん這いは結構サマになってるんだよな。」

美
「本当ね。
立ってる時は格好悪い人だと思ってたんだけど…
四つん這いになると、背中のカーブが獣みたいで…
ちょっとカッコいい♪」

空

「良かったなあ。
オマエ、一生這いつくばってろや。

どうだ〜兄貴？
アタシらのブレンド精子はうまいかぁ？」

美
「あらあら、お兄さん♪
そんなに喜んでくれて嬉しいです。」

空
「ん、どうした美憂？」

美
「ふふ。
ペニスが尻尾みたいにフリフリしてたから。
足で突いてみちゃった♪」

空
「良かったなあ、兄貴。
オマエ、美憂にそこそこ気に入られてるぞ。」

美
「くすくす。
ねえ、クーちゃん。

この人ｗｗｗ　おかしいｗｗ
足で突かれる度に、ペニスがおねだりしてプルプル震えてるｗｗ」

空
「こいつ、ガチマゾだからなあ。
あー、でも美憂もアタシと一緒でドSだから相性はいいのか。」

美
「うふふ。
えー。
お兄さん、マゾなんですかー？ｗｗｗ」

空
「おい、兄貴ｗｗｗ
ちゃんと美憂の顔を見て答えろよｗｗｗ
オマエ、マゾだよな？
キモいドM向け同人音声とか大好物のキモマゾだよな？」

美
「えー？
そうなんですかー？
くすくす。」

空
「えー。
顔見ればわかるじゃんｗｗｗ
コイツ、典型的なマゾ顔だしｗｗｗ

兄貴ｗｗ　こういうのが嬉しいんだよね？

オラァッ！」

美
「ちょｗｗ
クーちゃん！」

空
「はははっｗｗｗ

まあ、喜んでるみたいだからいいじゃんｗｗｗ」

美
「もう、ご自分のお兄さんでしょう？」

空
「一応《アニキ》とは呼んでるけどねえ…
拾った野良犬みたいなモンだよ、コイツ。

ふはははは！！

見て見てｗｗｗ

コイツ、妹に蹴られてチンポがフル勃起してるｗｗｗｗ」

美
「えーｗｗｗ
可哀想ーｗｗｗｗｗ
お兄さん大丈夫ですかーｗｗｗｗｗ？」

空
「まあ、こんな小さいゴミを『チンポ』って呼ぶのは…
ちょーっと苦しいかな？」

美
「くすくす。

もう、クーちゃんｗｗｗ

幾らなんでもそれは言い過ぎだよｗｗｗ

ふふ。

でも、確かにペニスというより…
クリトリスに近いですよねｗｗｗ」

空
「あはははは！！！！
クリトリスｗｗｗｗｗｗ
言えてるｗｗｗｗｗｗ

確かにサイズ的にはチンポじゃなくてクリだわｗｗｗｗｗｗ

まあ、クリにしちゃあ可愛気が足りないかな？」

美
「うふふふ。

じゃあ、『マゾクリ』は？」

空
「あはははははははっ！！！！！
マゾクリｗｗｗｗｗｗ

やっぱ美憂は天才ｗｗｗｗｗ
ネーミングが的確過ぎｗｗｗｗｗ

ほーら、良かったでちゅねーｗｗｗ
このちっちゃなちっちゃな出っ張りに名前を付けて貰えまちたねーｗｗｗｗ

マゾクリｗｗｗｗｗ

命名！

マゾクリｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

美
「あらあら。
お兄さんのマゾクリ…
ぴょこぴょこ喜んでますねｗｗｗｗ」

空
「はははははｗｗ
良かったなあ、兄貴ｗｗｗｗ
ちゃんと勃起出来てるじゃねーかｗｗｗｗｗ」

美
「くすくす。
お兄さんのマゾクリ♪
もうビショビショですよ。

淫乱なんですね？
お兄さん位のものですよ？

女に笑われて欲情する様な恥ずかしい子は♪」

空
「うはははｗｗｗ
コイツ、ケツ振り始めたしｗｗｗｗｗ」

美
「うふふふ。
期待しちゃってるんですか？

私達の逞しいペニスで可愛がって欲しいんですか？」

空
「まっ、アタシらのチンポ見せつけられたら仕方ないよな。
どんなに生意気な女でも、ちょっとアタシらのチンポ押し付けてやったら…
小便鼻水垂れ流してワンワン泣き始めるからさ」

美
「ねえ、お兄さん。
私達のペニス、どうですか？
もっと近づいて見てもいいんですよ？

ん？
感想を聞かせて。」

空
「ははは。
震え声でなんかボソボソ言ってるしｗｗｗｗ」

美
「ん？
もうちょっと、大きな声でハッキリ喋ろうか？

男の子だよね？

ん？

うん。

そう。

大きくて逞しかった？

うふ。

ありがと♪

精液の味はどうだったかな？

あら！？
そう。

甘くて…
お酒みたいだった？」

空
「あはは。」

美
「うふふ。
お兄さん、ちょっと酔っ払っちゃったみたいですね♪」

空
「酔い覚ましてあげよっか♪」

美
「うふふ。
酔い覚ましに踏み付けてあげますね♪」

空
「あれーｗｗ
あれれーｗｗｗｗ

コイツ、美憂に踏まれて興奮してるしｗｗｗｗｗ
うっわーｗｗｗｗ

さいてーｗｗｗｗ」

美
「あらあら。
こんなのがいいの？

年下の女に見下されて踏みつけられるのがいいの？

ん？

嫌だったらやめてあげるよ？

ん？

どうして欲しいの？

ふふふ。
そうなんだｗｗｗ

続けて欲しいんだｗｗｗ」

空
「ふふ。
チンポは美憂に任せて…
アタシはオマエの顔を可愛がってあげようかな？

ほーら、ビンタしてやろうｗｗｗ」

美
「うふふふふっ
クーちゃんのペニス硬いでしょ♪」

空
「ど～よ兄貴ｗｗｗｗ
妹の愛のこもったチンポビンタはｗｗｗｗｗ

たまにこれで奥歯が折れる奴とか居るから、頑張って耐えろよーｗｗｗ」

美
「ねえクーちゃん。
今のもう一度やってあげて。」

空
「何発でもいけるよー。
オラッｗｗｗｗｗ」

美
「うふふふふふっ！」

空
「ん？　何かあったか？」

美
「お兄さんね？
クーちゃんのペニスで叩かれると…
マゾクリがカチカチになるｗｗｗｗｗ」

空
「マジかよ！
どんだけドMなんだよｗｗｗｗ
うりゃｗｗｗ　　うりゃｗｗｗｗ」

美
「くすくす。
良かったですね、お兄さん。

可愛いマゾクリがじゅくじゅくになってますよ♪

それに凄く熱い。

私からも御褒美をあげますね？
私のペニスビンタ、顎が外れた子も居たからｗｗｗ
ちゃんと歯を食いしばって受け止めるんですよ♪

えいッ♪」

空
「うっはああ。
やっぱり美憂のチンポは、いつ見ても無敵感ぱねーわ。
そいや、前に美優のチンポビンタで鼓膜破れた奴もいたな。」

美
「ああ、そんな事もあったかな♪」

空
「おっ！　　兄貴の顔ｗｗｗ　　ボコボコに腫れてｗｗｗｗ
少しは見れる顔になったじゃねーかｗｗｗｗ
もう、何十発かチンポで殴ってやったら、イケメンになるかも知れないよー？」

美
「くすくす。
確かにｗｗｗ　　最初よりはマシかなｗｗｗ」

03. 「便器」

空
「あ〜遊んだ遊んだ……。
どうだー？
気持ち良かったか、兄貴？」

美
「あらあら、うふふ。
そんなに喜んで貰えると、こっちも御褒美のあげ甲斐がありますね♪」

空
「よーし、兄貴。
次はオマエが美憂に御奉仕する番だ。
当たり前だよなあ、さっきまで散々楽しませて貰ったんだから。

オラッ！！

美憂のデカチンに挨拶しろや。」

美
「ん？

あらあら、御丁寧にｗｗｗｗ
どうもｗｗｗ」

空
「馬鹿かッオマエは！！！
チンポに挨拶つったら、フェラに決まってるだろーが！！！！」

美
「無理しなくていいんですよ、お兄さん。
女のペニスなんて咥えさせられたらｗｗｗｗ

ふふふ。

男の人としてのプライドが完全に崩れちゃいますよねｗ」

空
「いいっていいって！
これから先、フェラぐらいできないと話になんないだろ？」

美
「……それもそうですわね。
　じゃあお兄さん、お願いしますね♪」

美
「うーんｗｗ
ふふふ。
やっぱり入らないかｗｗｗ」

空
「おらあああ！！！！
もっとクチマンコ広げろや！！！！
オマエは美憂様専用のマンコ便器なんだよ！！！！
ちゃんと御奉仕しろや！！！！」

美
「うふふ。
ちょっとｗ　くすぐったいｗｗ　かな？」

空
「ああ、もうっ！
何やらせても駄目だなオマエは！

マゾクリもクチマンコも役立たずかよ！！
咽喉（いんこう）だよ、咽喉！

オマエの咽喉マンコで美憂様のチンポに御奉仕するんだよ！！」

美
「クーちゃん。
最初だから仕方ないよ♪
お兄さん、安心してくれていいんですよ。
素人が私の巨根をどうこう出来るものではないですから♪

最初は玉袋舐め奉仕から始めてみましょう。

私の玉袋はね？
お兄さんのクチマンコやケツマンコに流し込む精子を作る大事な場所です。
自分の為ですから、丹念にしゃぶりましょうね♪

空
「美憂ってゴミには優しいよな。」

美
「うふふ。
わざわざ身分を解らせる必要もありませんから♪」

空

「兄貴〜、気合入れろよ〜？」

美
「んっ、お兄さん、表面を舐めるだけでなく、片玉ずつ口に含んで……、ああ、上手よ。
。　そのまま、吸うように舌で揉みほぐして……、そう、そう……」

空
「よ〜く覚えるんだぞ、兄貴。
後な？
もっと口を縦にすぼめろ。
オマエの口はマンコなんだから、ちゃんとマンコの形を作れよー。」

美
「流石クーちゃん♪
急に上手くなったよ、この子♪

ふふふ。

じゃあ、次は竿を舐めてください。
　下から上にツ〜ッと、舌を這わせなさい。
んんっ……
ふうううううううぅ。」

空
「どう美憂？
少しはマシになった？」

美
「あ、そこいいです。
その動き、繰り返し続けなさい。
んっ、んんっ……」

空
「あぁ、いいなぁ……」

美
「この動きをちゃんと覚えるんですよ。
奉仕の基本ですから。

じゃあ、次はカリを舐めてみようか？
舌をぺっとりとカリにつけて、ゆっくり周囲を舐め上げなさい。

舌をカリの裏にも密着させるように……、
んんっ！
いい♪」

空
「ん？
あれれー？

なんだー兄貴？
泣いてるのかー？」

美
「んー？
泣いても終わらないよー？
それとも、本格的な躾けが必要かな？

うふふ。

そうだよね♪

じゃあ、ちゃんと、舐め舐めしようねー♪」

空
「アニキー。
頼むからアタシに恥をかかせるなよー。
オマエ、性欲処理以外に使い道ないんだからさぁ。
フェラくらいは頑張ってくれや。」

美
「もう、クーちゃんってば……。
お兄さんに酷い事ばっかり言って。

？
あら？

あらあら！？

まぁ！

うふふふふふっ……」

空
「ん、どうしたんだ、美憂」

美
「うふふっ、お兄さんの、マゾクリ……」

空
「ん～？
　ぶっ！　あはははははっ！
　何だよ兄貴、泣きながらフル勃起してるじゃねーかｗｗｗｗｗ
おお！！　今日一番たってるぞ！！！
足の小指から薬指位には出世したんじゃないかー？」

美
「うふふふふっ！
喜んで下さいね、お兄さん♪

これから毎日、その可愛いクチマンコを開発してあげますから♪」

空
「あはははははっ！
オマエのマゾクリ大洪水じゃねーかｗｗｗｗｗｗ

本当に兄貴は淫乱だな♪
最下層のメスマゾ便器でも、ここまでの反応はないわ。」

美
「うふふふっ、フェラを強要されて、マゾクリを立たせる……。
　すっかり立派なメスマゾですね、お兄さん♪」

空
「ははは♪
泣いてるフリとかしなくていいから。
オマエのマゾクリがおねだりしまくってるからｗｗｗｗｗｗ」

美
「うふふふふ……
こんな淫乱な子、生まれて初めて見ましたｗｗｗ」

空
「あ、いい事思いついた。
コイツをさ、全裸で部屋に設置したらどうかな？
美憂、便所が遠くて困ってたじゃん。」

美
「うふふ。
それ素敵♪

実は私ね？
夜にお手洗いまで行くのが面倒だったの」

空
「美憂の屋敷はすっげえ広いからな。
ションベン位なら、コイツに全部に飲ませりゃいいんじゃね？」

美
「それもいいアイデアね♪
うふふ。

クーちゃんと会えない夜に使うね……」

空
「本当はアタシが美憂の専用ザーメンタンクになりたいんだけどな。
普段はコイツを使ってよ。
アタシのマンコだと思って、思う存分射精してくれたら嬉しい。」

美
「これをクーちゃんだと思って、滅茶苦茶にレイプするね♪」

空
「良かったな、兄貴。
オマエ、今日から美憂のオナホ便器だから。
こんな出世は滅多にないからな？」

美
「一滴もこぼさず飲んでくださいね？
マゾクリお兄さん♪」

空
「あ～、これでアタシもほっとしたよ。
　今日は最初、どうなることかと思ったからな～。

　…に、してもッ！！

アニキ。
ジャマだから、ちょっとどいとけや。」

美
「ちょっと、クーちゃん？」

空
「ゴメン、美憂。
もう我慢出来ない…　　です。
家のゴタゴタが無けりゃ、アタシが美憂のオナホ便器になりたかったからさ…」

美

「あのね。
いつも言ってるでしょ。
クーちゃんは、恋人。
私、クーちゃんは大事にする事に決めてるから。」

空
「うん。
ありがと♪

でも、アタシ…
尽す女だから。

…尽させて♪」

美
「…わかった。」

空
「アニキ…
元々、美憂様に奉仕するのはアタシの仕事だから。
盗っちゃ駄目だよ。

まあでも一応、手順だけ仕込んでおくな。
アタシのを見て覚えとけ。

まずは先っぽにキス♪

美憂は最初にこれをされるのが好きなの。
それから先っぽの穴に舌先を這わせる、軽くね？

チュッ、チロチロチロチロ……」

美
「あッ！　　…っくんッ！！」

空
「口を全開にして亀頭をほおばれ。
　絶対に歯ぁ立てるなよ？

グポッ！　チュロチュロチュロチュロ……」

美
「ひぃんっ！？
ああ…

クーちゃん、いいよお。」

空
「おごおごごおごごごご、おごおごごごおおごお、おごごおごっごご
（こうやって舐めながら、時々吸い上げるんだよ、頬をしぼめてな）。」

美
「バキュームのまま、モゴモゴされるのいいよお…
　あ、駄目、す、吸わないで……」

空
「ジュポポポポ、ジュル、ジュポポポポッ！」

美
「あん、あぅんっ！
駄目、立ってられ、ない……。

あぁんっ！

お、お兄さん……、こ、これが、ひぃんっ！
く、クーちゃんの、フェラよ……。

この、レベルっ！
まで、仕込みますから…

あああああああ！！！！！！！」

04. 「本番」

美
「……ふぁああんっ！
あんっ！　あはっ！
　まっ、ちょ……、はな、はぁんっ！
　はな、はなしてぇっ！」

空
「……ぷはぁ。
まだ、途中…
ぶぷっ！」

美
「……ふぅっ。
ちょっと、休憩。」

空
「まだ、フェラ途中だったのに…」

美
「クーちゃんごめんね。
フェラチオ最高だったんだけど。
さっきから、クーちゃんの勃起したペニスがチラチラ目に入って、それで……」

空
「マンコ切ない？」

美
「そ、そんなはっきり言わないで！」

空
「あはははっ！
　分かった分かった。
　その代わりよ、アタシのオマンコもうずきっぱなしなんだ、だからよ」

美
「分かってる。
後でちゃんと御褒美をあげますから。」

空
「ああぁ…
約束だよ？
ちゃんと滅茶苦茶に犯しまくってね？」

美
「うふふっ。
私をちゃんと楽しませてくれたら、ね♪」

ねぇ、クーちゃぁんｗｗｗ
クーちゃんの大好きな、私のお尻だよ♪

こうやってフリフリしただけで…
我慢出来ないんだよね？」

空
「ああ…
美憂、ホントに。
強くてエロくて最高の女だわ…」

美
「クーちゃん。
来なさい♪」

空
「はあぁ…
マジ、たまらん…」

美
「うふふ。
早くしないと、犯してあげないよ？」

空
「する！　するから！」

美
「はぁあぁぁぁ〜……っ！
　クーちゃんの堅くておっきいのが、お腹の奥までくるぅうっ……」

空
「うっ！
　……やっぱ美憂の中は凄い
ヒダがびちびちで…
精子、吸われる…」

美
「あぁっ！！！
クーちゃんのペニス…

おなかがグルグルしちゃうよぉ…」

空
「あッ！！！
し、しまる…
あああああッ！！
チンポが絞られるッ！！！」

美
「はんっ！　ああ、いいっ！　くぅんっ！
　くーちゃ、ああっ！　もっと、早くっ！」

空
「おおおお！」

美
「くひぃいっ！　はぁっ！　あんっ！　うっ！
　くるぅううっ！　クーちゃんのっ！
どんどんっ！　くるぅうっ！」

空
「はぁっ！　はっ……。」

美
「んんんんっ！
　こし、押しつけて、深くっ、ねじ込んでっ……」

空
「うおおお！！　　いつもながら、凄い名器ッ…」

美
「いいっ！
　凄くいいっ！」

空
「兄貴！
美憂のチンポしゃぶれ！！」

美
「あああああ！！！
兄妹どんぶり来るよおおお！！！！」

空
「美憂ッ！」

美
「くひぃいいぃい〜っ！
　ああ、いいっ！　はぁっ！　すご、すごいぃっ！」

空
「お゛！　お゛！　お゛！　お゛！」

美
「いぁああっあっ〜！
　いいっ！　あうっ！　あんっ！　ひぃいっ！」

空
「くぅっ！
　し、締まりすぎいいいい！！！」

美
「はぁ、はぁ……。
　お兄さん、邪魔！
離れなさい！」

空
「はあはあ…」

美
「この人、やっぱり邪魔。
クーちゃん、続きッ！」

美
「くぁあぁあ〜っ！
　ひっ！　ひびくっ！　あたまのっ、さきまでっ！」

空
「くっ、しゅ、しゅごい…」

美
「あんっ！　んぁっ！　あんっ！　あぁんっ！
　も、もっと！　もっと！　ついてっ！」

空
「あっ、ホントだめ」

美
「ああっ！　来て、きてっ！
　ああんっ！　いくっ！　すごいのっ！　くるっ！」

空
「ぐうあああああ」

美
「あっ！　だめっ！　いくっ！　あんっ！
　ちょうだいっ！　なかっ！　あんっ！　いくぅっ！
　いぐうぅうううぅううう〜っ！！！」

空
「ご、ごめん。
もう、で…

ッん！」

美
「クーちゃん、もっと突きなさい！！」

空
「ご、ごめん。
美憂の中、凄すぎて動けない…」

美
「ピストンしてあげないよ！
貴女、私なしで生きられるの！？」

空
「あ、ご、ごめん…　なさい。
突くから！
ちゃんとしますから！！」

美
「あああああああああ！！！
これ、これ、これ！
だから、クーちゃん手離せないのよぉ」

空
「あああ、我慢できない。
出したい…」

美
「駄目よ！」

空
「ホント、もう無理…」

美
「してあげないよ！」

空
「ああああ…
い、いやあ…

おねがい…　ゆるしてぇ…」

美
「ああンっ♪
ああああああああああああ♪
いいいいぃ♪」

空
「お、おねがぃ」

美
「もっと、左右に突き分けなさい…

ああああああ！！！！！

今のを繰り返しなさい。」

空
「グッ！！！
で、でちゃうううう！！！！！」

美
「はぁっ、はぁっ……」

空
「はあはあ

…ご、ごめんなさい。」

美
「ちょっと不完全燃焼かな…」

空
「あ、ご、ごめ…」

美
「まあ、いいわ。
足りない分はお兄さんにさせるから。」

空
「コイツに？」

美
「折角だから、食べ比べたいじゃない。
兄妹どんぶり♪」

空
「コイツのマゾクリ、ローター以下だと思うけど…

まあ、いいか。

来い、アニキッ！！
美憂様に御奉仕しろ！！」

美
「うふふ。
怖がらなくてもいいんですよ、お兄さん♪
いい子にしていれば、優しくしてあげますからね♪」

空
「全力で尽せ。
手ェ抜いたら殺す。」

美
「じゃあ、お兄さん。
そのマゾクリで私を楽しませなさい♪」

空
「ん？　はよ入れろや。」

美
「あら？　どうしたの？」

空
「オマエ…
ひょっとしてセックスのやり方がわからないのか？」

美
「え？　　そんな…
いや、流石にそれは…」

空
「え？
オマエ、ひょっとして童貞？」

美
「は？」

空
「は？」

美
「はあ？」

空
「はああ？」

美
「これは想定外でした…」

空
「ごめん…
後で制裁しとくわ。」

美
「く、クーちゃんは悪くないよ。
考えようによっては、初物を頂ける訳だし…」

空
「アニキ…
後で話あるから。」

美
「…はあ。
まあ、誰にでも初めてはありますから…

怒らないから、マゾクリを入れてみて下さい。」

空
「マンコの辺りにチンポ押し付けろ。
オマエみたいな馬鹿は余計な事考えなくていいから、言われた通りにやれ。

はああ！！
セックスなんて教わるような事か？」

美
「ほら、お兄さん！
ちゃんと入れなさい！」

空
「オラッ！！
その位置なら後は刺すだけだろうがッ！！」

美
「え？　　『入れた』？」

空
「アニキー。　　嘘はいかんぞー、嘘はー。
美憂が入ってないって言ってるだろうがー。」

美
「あ、ご、ごめんクーちゃん。
何か入ってる。
…ような気がする。」

空
「え？　え？」

美
「言われてみれば…
モゾモゾするような、しないような…」

空
「え？　兄貴、オマエもう入れたの？」

美
「うーん。
フニっとした感触があるから…
マゾクリが当たってるのかも知れない。
確信は持てないけど。」

空
「横から見ると…
入ってる様にも見えなくもない…　かな？
断言はできないけど…」

美
「ああ。
もう、どっちでもいいか…

お兄さん。
そのまま動きなさい。」

空
「オマエ、オツムも喧嘩も弱い上に、腰の振り方まで弱いな…」

美
「え？　　それ、全力？」

空
「あの…
気持ちいい？」

美
「そう見えるの？」

空
「いや、見えない。」

美
「う～ん。

お兄さん。
どきなさい。

あなたの使い道はこれから考えます。

別に怒ってないから…

これ以上、私を怒らせないで下さいね？」

空
「コイツの使い道は…
多分無い。

大体、入ったかが解らないチンポってどんなんだよ！」

美
「あら？　　クーちゃんも試してみます？」

空
「え？　アタシが兄貴と？

…まあ、美憂との間接セックスだと思えば、悪くもないか。」

美
「お兄さん。
そのマゾクリ…
次はクーちゃんに押し付けなさい。」

空
「オラ、兄貴。
ハメろや。」

美
「クーちゃんの身体に一つでも傷を付けたら…
わかってますよね？」

空
「おし、乗れ。
遠慮すんな。
女の身体なんて、マンコの付いた抱き枕みたいなモンだから。」

美
「うふふふっ」

空
「おう。　はよせいや。」

美
「うふふふふっ、さて問題です♪
お兄さんのマゾクリはいつ入ったでしょうか？」

空
「ええっ？　嘘、てかもう入ってんの？
え？　　え？」

美
「うふふふふふっ！」

空
「うあ～……、マジで？

まあ、いいか。

おい、ぼさっとすんな。
はよ動けや。」

美
「どう？　クーちゃんｗｗｗ
感想聞かせてｗｗｗ」

空
「いや…
感想も何も。
神経を集中すれば、何かが当たってるような気がするけど…」

美
「あはははは！
私も同じ事思ったｗｗｗ」

空
「は～……。
　んじゃさ兄貴。
とりあえずオマエ、射精しろ。」

美
「ほら、お兄さん。
射精しよっか？
言われた通りにしようねー？」

空
「ん？　『近親相姦で子どもが出来ちゃう……』　？」

美
「くすくすッ」

空
「はぁ〜……、兄貴さぁ
この後美憂のデカチンが私の中で射精するんだぜ？

兄貴のマゾクリ精子なんかさ、後から来る強力精子に一瞬で殺されちまうから。全然大丈夫」

美
「うふふふっ、それにねお兄さん♪
私のカリは凄く大きいから、前に残った精液は全部掻き出しちゃうんです。
安心してくださいねー♪」

空
「よーし出せ。
ん？　　どした、出せよ？

……え、今の言葉攻めで射精した？

いや、攻めてないけどな。」

美
「ん？　出たの？」

空
「え、嘘？
このサラッとしたのがオマエの精子なの？」

美
「腐った水みたい…」

空
「え？　え？　　これションベンじゃなくて？
ゴメン、意味が解らない。」

美
「それに量も凄く、少ない……」

空
「はぁ……」　　（大きなため息）

美
「はぁ……」　　（大きなため息）

05. 「ふたなり絶対者様の本番」

空
「あ、あのさ、美憂」

美
「ん、何？」

空
「そろそろさっきした約束…

して…　　下さい…」

美
「うふふ。
だいぶ、おねだりが上手になったね♪」

空
「あうううう。」

美
「もうちょっと、お股開こっか？」

空
「…あ、あんッ！」

美
「セックスのお手本を見せてあげますね、お兄さん♪」

空
「いぎぃいっ！！！！！
あああああああああ！！！！！！」

美
「今日はちょっと痛くしちゃおうかな♪」

空

「え！？
い、痛いのヤダぁ…」

美
「くすくす。
下のお口は嫌がってないよ♪」

空
「う゛う゛ッ！！！
う、うしょ…
こ、こんなの、むり…」

美
「クーちゃんの泣き顔♪
いつ見ても可愛いなあｗ

…今日は壊すから。」

空
「うううううあああああ！！！
い、いやああ！！！
お、おねがいッ！！
やめッ！！！」

美
「だーめ♪」

空
「ああああああ！！！！
ご、ごわれるうううううう！！！

あ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！
おねがッ！！　　ゆるじでッ！！！！」

美
「くすくす。
兄が兄なら妹も妹よねｗｗｗ
さっきまでの元気はどうしたのかなー？」

空
「ひあっ！　いあぁあああっ！
　いいっ！　あんっ！　あふぅん！　あぁっ！」

美

「ふふふ。
そんなに嫌ならやめてあげてもいいんだよ？
クーちゃんはセックス嫌いだもんねー♪」

空
「いやああ！！！
や、やめないで！！！」

美
「ふふ。
さっきはやめてって言ったじゃないｗｗｗ」

空
「やめないでぐださいーーーー
おねがいじまずーーーーーー。」

美
「あははは。
どうしようかなーｗｗｗｗ」

空
「おねがいじまじゅ！！！
みゆしゃまッ！！！！
もっとおチンポくだしゃい！！！！」

美
「ふふふ。
私は止めてもいいんだけどな？
オナホールの代わりなら、ここに不細工な方もあるしね♪」

空
「ふええ。
いやッ！！　　いやああ！！！！」

美
「じゃあ、体重掛けるよ」。
内蔵潰れない様に耐えてね♪

空
「うッ　　がああああああああああああ！！！！！！」

美
「ふふふ。
締る締るｗｗｗｗ

ねえ、クーちゃん♪

感想を聞かせて♪」

空
「あっがあああああ！！！
あはっ！　あはあっ！
しゅごしゅぎて、わかりましぇん！！！
美憂しゃまのおチンポしゅごいでしゅう！！！！！」

美
「私は全然だよー？
クーちゃんがちゃんと動いてくれないから…
全然気持ちよくなれないなーｗｗｗ」

空
「も、申し訳ござあああああああああああ！！！！！
いやあああああああああ！！！！！」

美
「はい、おしおき♪
クーちゃん、私におしおきされるの大好きだもんね♪」

空
「はひいいいいいいいい！！！！
おっほおおおおおおおお！！！！」

美
「うふふ。
いい締め付けよ。
その調子で私のペニス締め続けなさい」

空
「ひゃん！　ひゃいいっ！　いいんっ！！！！」

美
「少し馴染んだかな？」

空
「ひゃん！　ああっ！　もっと！　もっとぉっ！
みゆしゃま！！！　みゆしゃまぁっ！」

美
「うふふふっ、思い出すよねー。
私が転校してきたときの事♪」

空
「ひゃん！　くひゃ！　ああんっ！
　いわっ、ないでぇっ！」

美
「クーちゃんが私をレイプしようとしたからｗｗ
私が皆の見てる前でクーちゃんを犯してあげたのよねー♪
クーちゃん、皆に見られてどんな気持ちだった？」

空
「ああっ！　あはあっ！　あのときぃ！　もぉっ！
とっても！　きもちぃ！　よかった！　ですぅっ！」

美
「うふふ
みんなにはあの時のクーちゃんの動画でオナニーするように命令してあるからｗｗｗ
今頃、みんなクーちゃんの号泣アヘ顔動画でオナニーしてるかもねｗｗｗ」

空
「ああっ、いきゅっ！　もう、いきゅぅんっ！」

美
「もう？　うふふふっ
じゃあ、今日は切りあげようかな♪」

空
「ひぃいいいいいいい！！！
いくっ！　いくぅっ！　もう、だめぇっ！」

美
「?～」

空
「あひゃああぁああっ！！！」

美
「?～」

空
「お、おゆるしくだしゃい」

美
「?〜」

空
「ほんとに！！！！
もう！！！
しんじゃいます！！！」

美
「?〜」

空
「もうゆるじでええええええ」

美
「?〜」

空
「いやあああああああ！！！！！！」

美
「?〜」

空
「あ、中しゅしゅごいいいい
おなかにどくどくしゅるよお」

美
「わかってるよね？
まだ終わらないよ？」

空
「お、おねが…
おゆるしくだしゃい…」

美
「体位変えるね？
駅弁だったっけ？
持ち上げちゃった方が、思いっきり突けるからね♪」

空
「ひああ。
しょ、しょんな…」

美
「あらあら？
お返事が聞こえないなあ？」

空
「ひゃい！
おねがいいたしましゅ！」

美
「クーちゃんも、いいお返事が出来るようになってきたね♪」

空
「あ！　が！　が！　　が！　　お゛！
お！゛お゛！お゛！お゛！お゛　！お゛！お！゛お！゛」

美
「このまま心臓まで貫いてやろうかしら♪」

空
「ひゃん！　ああっ！　いぎぃ！　くぅうっ！
　あふぁ、あんんっ！　だめ、またイクッ！」

美
「まだ　だーめｗｗ」

空
「は、ひゃいっ！
　でっ、でもぉっ！　きもち、よすぎっ！」

美
「うふふ。
このコリコリがいいのよねー♪」

空

「ひゃあぁあああああああああああ！

　あんっ！　ああっ！　くぃいっ！　んんっ！
　あふぅっ！　あんっ！　みうさっ！　美憂さまぁ！」

美
「仕込んだ甲斐があったわ。」

空
「あああああああああああっ！
　だめっ！　いぐぅっ！　ああっ！　むりぃ！」

美
「ちゃんと私につかまってなさい♪」

空
「あああっ！　ひぐぅっ！
いぐっ！　いぎゅうぅううんっ！」

美
「あらあら、お手手離したら壊れちゃうよ？」

空
「あっ！？
　あぁあぁあっ！
ぎゅひいいいあああああああ！！！！！！」

美
「力を入れてないと、奥の奥まで入りきっちゃうよーｗｗｗ
って遅かったかな♪」

空
「みゆしゃまぁ」

美
「ん？」

空
「きも、ちぃい……。
ぎもじいいでしゅううううう
　も、もっと、突いてくだ、さぁい……。

　しゃせい、してぇ……？」

美
「あら、そう♪
いいの？ｗ」

空
「ひゃいいんっ！　あぁああんっ！
　いいっ！　ふかいいっ！
あんっ！　ひゃぐぅうっ！」

美
「ふうう。
そろそろかな？」

空
「いくぅうんっ！　あぁああんっ！
　おなかのおくぅっ！　しびれりゅうっ！」

美
「あんっ、あっ、まだ、もう少しっ」

空
「ひゃあぁあっ！　あんうぅううっ！
　いってるぅううっ！　いってるのぉおおっ！
あんんっ！　ひぃいいんっ！
　あぁあああっ！　ひゃぃいいいんっ！」

美
「あっ、昇って、きたよ
あっイクッ」

空
「いいのぉおおっ！　きもちぃいいぃ！
　いってぇええ！　いってぇえぇっ！」

美
「ああっ、く、クーちゃぁあんっ！」

空
「あひゃぁあああああいくぅうううぅうううぅ！」

空
「……」

美
「うふふ。
良かったよ。

少し休んでなさい♪

チュッ♪」

美
「マゾクリ、おいで。
まだ出し足りないわ。
オマエのクチマンコで私をいかせなさい。

ん？
早くなさい。

オマエにはクーちゃん程の愛着はないから。
役に立たないなら処分するよ？

苦しかったらアゴを外してもいいのよ？
オマエは二つしか穴がないんだから…
ちゃんと活用しようね。」

美
「うふふふふっ、いいわ、もっとよ、もっと奥まで。
　……ああ、食道が逆流してるのが分かる。
気持ちいいわ。
それじゃ、動くわね？」

美
「あっ、ふぅんっ！
いいよー。
オマエ、マゾクリは使い物にならないけど…
咽喉マンコはなかなかよ♪」

美
「ねぇ、アナル…
ほぐしておきなさい♪

ふふふ。
ちゃんとほぐさないとｗｗｗ

死んじゃうよ？

オマエにはクチマンコとケツマンコしかないんだから…
ちゃんとしようね？」

美
「あっ！　ふふ、お兄さんｗｗｗ
今の舌の動きは良かったよ♪

ぎこちないけど…
そこが新鮮♪」

美
「んー？
お手手が止まってるよーｗｗｗ
ちゃんとアナルをほぐそうねー？
頑張って前立腺を探そうｗｗｗｗ」

空
「う、ううん……」

美
「あ、クーちゃん。
おはよう。」

空
「…あうー。」

美
「今ね？
お兄さんのノドマンコを味わってるの♪
感触がクーちゃんの中に似てて　びっくりしちゃった。」

空
「一応、兄妹だからね。」

美
「さて♪
次はお兄さんのケツマンコを楽しませて貰おうかしら。」

空
「ほーら兄貴。
オマエの淫乱ケツマンコ。
美憂様のお役に立てろよ。」」

美
「うふふ♪
悶えだしたわねｗｗｗ
私ね？
男の人が強姦される直前の怯えた表情が大好物なのよ♪」

空
「男って無防備な奴多いからな。
まあ、レイプされんのも自業自得だろ。」

美
「うふふっ
お兄さん♪
ケツマンコｗｗｗ
自分でモミモミして準備しようねー♪」

空
「おやおやー？
兄貴のお尻ｗｗｗ　　ヒクヒクしてるねー？
期待してるのかな？

ひょっとしてレイプ願望あったの？」

美
「あらあらｗｗｗ
お兄さん、レイプ願望あったんだｗｗｗｗ

んー？
逞しいペニスに身体の中をグチャグチャにかき回される想像して毎日オナニーしてたのー？

うふふふ。
良かったねー。

今、オマエの夢を叶えてあげるね♪」

空
「あはは。
あにきーｗｗｗ
優しい優しい妹様がアナルほぐしてやるよｗｗｗｗ

間違って前立腺を開発しちゃったらごめんなーｗｗｗ」

美

「ふふふ。
クーちゃんはケツマンコ作りの天才だから♪」

空
「何の取りえもないゴミをみてるとな？
ついついケツ穴開発してあげちゃいたくなるのよｗｗｗｗ
感度のいいケツマンコは、オトコノコの財産だよー？ｗｗｗｗ」

空
「おお、いきなり指二本ｗｗｗｗｗ
兄貴ｗｗｗ　　オマエｗｗｗｗ
ひょっとして毎日アナニーしてたんじゃねーのｗｗｗｗ？

いやいや怒ってないｗｗ怒ってないｗｗｗ
オマエにしちゃあｗｗ　いい心掛けだｗｗｗ」

美
「くすくす♪
ケツマンコを刺激されてｗｗｗ
オマエのマゾクリが薄い汁を垂れ流してるよｗｗｗｗ

マゾクリケツマンコ♪
楽しみー♪」

06. 「二穴地獄」

空
「んっ……、これでよしっ、と。
　美憂様ッ♪
肉便器のマゾ穴をほぐしておきました♪」

美
「私のペニスが入るかなー？」

空
「いや、それは多分無理。
まあ、壊れたら壊れたで…
アタシが別の肉便器を調達してくるだけだから。」

美
「折角クーちゃんに貰ったのに」

空
「美憂の為なら、何千個でも肉便器持ってきてやるから。
まあ、コイツ以下のゴミは…
流石のアタシでも用意する自信がないけど…」

美
「そう言われると…
このマゾクリちゃんが貴重品に見えて来る♪」

空
「あはは♪」

美
「さあ、マゾクリちゃん♪
こっちにお尻を向けて、四つん這いになりなさい」

美
「くす♪
思ってた通りｗｗ
お尻を叩いたら、ケツマンコの準備が完了しちゃったｗｗ」

空
「オマエ、真性のマゾだよなｗｗｗ
うっわーｗｗｗｗ

オマエのケツマンコｗｗｗ　愛液で大洪水じゃねーかｗｗｗｗ」

美
「うふふ。
じゃあ、マゾクリちゃんのおねだりに応えてあげるね♪」

空
「死なない様に意識をしっかり持っとけよ。」

美
「ん、さすがに固い、ですわね」

空
「おいッ！！
もっとケツ上げろ！」

美
「あ、先っぽイケた…
後は楽しむだーけ♪」

空
「死ぬなよ、兄貴！」

美
「はい♪
いっただっきまーすｗｗｗ」

美
「……くっ、くぅっ
これは中々…
……嘘、でしょ……？」

空
「え、何？」

美
「これ、すごく具合がいいよ……。
ヒダヒダが吸い付いて来て、うねうねする。

クーちゃんの膣に似てるかも。」

空
「えっ、マジで？」

美
「このマゾクリからは、想像できない程の名器よ。
あ、これは当たりだわ。」

空
「へ〜っ！
良かったな兄貴！

人間一つぐらい、取り柄があるもんなんだな！

美憂。
あとでアタシも試していい。」

美
「勿論だよ。
二人で楽しもう。

それじゃあ、動こうかな♪」

美
「うふふふふっ
マゾクリちゃんｗｗｗ
オマエｗｗ　処女とは思えない具合の良さだよ♪

売りに出してもいい値段がつくかもｗｗｗ」

空
「……」

美
「あら、どうしたのクーちゃん」

空
「美憂が凄く気持ちよさそうだから…」

美
「くすくす。
嫉妬？」

空
「そっ、そんなんじゃないけど…」

美
「あはは。
ゴメンゴメン♪

クーちゃんもコレ使おうよ。
マゾクリちゃんのクチマンコが丁度空いてるし♪」

空
「そう言えば、二穴も久し振りだなー。」

美
「私、二穴プレイが大好きなんだけど。
中々、手頃な子が居なかったのよね。」

空
「兄貴〜
クチマンコ、使うわ。

んー？

抵抗する意味とかあんのか？

よしよし、素直な肉便器クンだな。
偉いぞー。

もうちょっと、アーンしよっか？

よーしよし。」

空
「……おぅっ、すげえな。
何か兄貴のクチマンコってマンコみたいな構造してない？

オマエが不細工なのって、顔がマンコだからなのかもな。」

美
「クーちゃんもそう思った？
この子ってマゾクリだし、クチマンコだし…

まるで犯される為に生まれて来たような体質なのよ。」

空
「性癖もマゾだし。
力も弱いし。

便器要員なのかもな。」

美
「ああっ！
クーちゃんのペニスが口に入ってから…
ケツマンコの締まりが凄いよ！！」

空
「うおッ！！
クチマンコ、熱くなってきた！
ああ、ヤバい。
これ、病みつきになるかも。」

美
「あっあっあっ！
何コレ！？」

空
「ッ！！！！
うあああああ。
咽喉の動き方…
エロすぎだろぉ…」

美
「……んっ、くぅっ！」

空
「イクの？」

美
「私、ここまで我慢できないのは初めてかも…」

空
「美憂にここまで言わせるって…

あ、駄目！
アタシも持たない！！！」

美
「んんっ！
　イクよ、マゾクリ！！
味わいなさい！！！」

空
「ゴメン。
アタシも出す！」

美
「はぁ、はぁぁ……
ああ、いいわあ。
オマエ、最高よ」

空
「はぁ、はぁぁ……
こんな身近に、ここまでの名器があったなんて…」

空
「あ、美憂の精子…
ズ〜ッ、ズチュルルル〜ッ」

美
「ふふ。
どうマゾクリ？
妹さんのアナルバキュームは？」

空
「ゴクン！　ゴクン！　ゴクン！
……ぷはぁ。
美憂の精子やっぱり美味しい。」

美
「クーちゃん……。
私の尿道の残りも飲みなさい」

空
「あ、あふう。
チュッ！　チュルチュチュチュ〜！」

美
「うあああああ。
いいわあ。

ふふ。
クーちゃんのペニス♪
相変わらず絶倫ね。

また、こんなにして」

空
「もごお…

美憂のチンポしゃぶって、勃起しないで済む奴なんていないよ。」

美
「クーちゃんの絶倫ペニス。
マゾクリに入れてあげなよ。」

空
「…うん。
アタシも極上ケツマンコ、ハメてみたい。」

美
「マゾクリッ！
クーちゃんにケツマンコを向けなさい！」

空
「ああ、コイツのケツマンコ…
美憂の精子にテカテカまみれて…
マジそそる…

ハメるぞ。
ケツの力を抜け。」

空
「うッ
おおおおお。
いいケツ具合だわ。」

美
「うふふっ。
私の精液がローション代わりになったみたい。」

空
「んはあああ。

み、美憂……？」

美
「ん？」

空
「アタシのマンコって、こんな感じなの？

んあッ！！
今、動いた！

あ、ヤバ！
これやばい！」

美
「ふふ、
クーちゃんとマゾクリ♪
兄妹で同じ様な名器よ。」

空
「くぅぅぅぅっ！
あ、出るかも！！

ウソ！？

あ、すごい！！」

美
「でしょ？」

空
「兄貴。
締め過ぎ…

ああああ。
マジすごい…」

美
「あらあら、クーちゃんｗｗ
凄いトロ顔だよ♪
じゃあ、私はマゾクリのクチマンコを楽しもうかしら♪

ほら、クチマンコ、『くぱぁ』しよっか？
うふふ。

はい、くぱぁｗｗ」

空
「うおッ！！！
ケツマンコッ！！　急に！！！」

美
「うふふふふ、凄いよね？

この子のケツマンコとクチマンコｗｗｗｗ
完全に連動してるのよｗｗｗ」

空
「兄貴、偉いぞー。
マジ見直したわ。
オマエ、便器の天才かもな。」

美
「マゾクリ、お手柄よ♪
これから毎晩泣き叫ばせてあげるね♪」

空
「何とか、美憂の前で面子が立ったわ。
御褒美にマゾクリ触ってやるからな♪

ふふふ。
ここがいいんだよね？」

美
「あッ！　　この子動いた♪」

空

「こいつのマゾクリいじってやったら、中の動き……
ん、んっ！
また締め付けてきた！、
すげえなこのケツマンコ！」

美
「うふふふふっ、便利なマゾクリｗｗ
　どう？
妹さんの愛撫は？
クリイキ出来そう？ｗｗｗ」

空
「おらっｗｗｗｗ
ここかー？ｗｗｗ
ここがいいのかー？ｗｗｗｗ」

美
「あらあらｗｗｗ
この子ｗｗｗｗ
クチマンコを必死で動かしてｗｗｗｗ」

空
「ははは。
可愛いおねだりするじゃねーかｗｗｗ
御褒美にオマエのマゾクリ、潮吹きさせてやるわ。」

美
「良かったねえ、マゾクリｗｗｗｗ
オマエ、メスアクメさせて貰えるのよ♪」

空
「おらぁ！
もっとケツマンコ絞めろよ！

ぅッ！
コイツ感度良過ぎだろ…

おおう！
もう精液昇ってきた！

もう出すわ。
ああ、イク。

くぅっ！　あっ！　ううっ！
くぅううぅ～！！！」

空
「くっはああ！
はぁっ、はぁっ……
マジで過去最高のケツマンコだったわ。」

美
「ね？　良かったでしょ♪　クーちゃん」

空
「いや、ここまでとは思わなかった。

ん？

オマエもマゾクリでイッたのか？」

美
「ん？
マゾクリ。
オマエ、ちゃんと絶頂出来たの？

ん？
この薄いお汁は精液？　おしっこ？
怒らないから言ってみなさい。」

空
「へー。
やっぱ、これがオマエの精液なんだ。
これ、水じゃね？」

美
「マゾクリ。

オマエの水精液でケツマンコとクチマンコを湿らせなさい。
精子としての価値は無くても、ローションの替わりくらいにはなるよね？」

空
「オマエ、何キョドってんの？
あんなので終わりな訳がないじゃん。」

美
「くすくす。
オマエに休憩なんてないのよ？」

空
「おーし、ケツ上げろ！
アタシらがハメやすい様にちゃーんとクチマンコ広げろよ。」

美
「ケツマンコももっと大きく開こうか？」

空
「よーし、いい子だ。
オマエって精液便所の素質あるよ。」

美
「偉いよ、マゾクリ♪
これからずっと、ザーメンタンクとして可愛がってあげるからね♪」

空
「おお！
これこれ！
コイツの舌って、程よくぬめってて…
アッ！！」

美
「ケツマンコも最高！
お尻全体で奉仕してくるの♪

ああ、病みつきになりそう♪」

07. 「愛」

空
「……はぁっ。
　み、美憂ぅ」

美
「クーちゃん……」

美
「はぁぁあっ……
や、やっぱりマゾクリのケツマンコ♪
すごく気持ちいいよ。」

空
「うっ！
くぅっ……
兄貴のクチマンコも、かなり馴染んできたわ。」

美
「最高のプレゼントだよ、クーちゃん。」

空
「気に入ってくれて良かったよ。」

美
「二人で色々、Hなオモチャを試した時期あったじゃない？」

空
「あったね。」

美
「どれも使い物にならなかったけど…
このオナホールだけは特別！」

空
「わかる。
それにしても意外だったよ。
まさか兄貴にここまで便器の才能があるなんてな。

今まで馬鹿にしてゴメンな、兄貴。
これからは美憂の精液便所として幸せに生きろよ？」

美
「うふふふふっ。
　でもこうして、ケツマンコとクチマンコを同時に犯してる時が、一番気持ちいいよね。
」

空
「こういうの穴姉妹って言うのか？
親睦深まるっぽくて胸が熱くなるわ。」

美
「うふふっ、それにｗｗｗ
マゾクリにはこんな機能もありますしねｗｗｗ」

空
「お、動き変わった！！

何？
短小マゾクリ摘まんだの？」

美
「ふふ、マゾクリの新機能発見しちゃった♪
これの摘み方次第で動きが激しくなるのｗｗｗ」

空
「やっぱ、この程度の短小メスチンコにも使い道はあるんだな。」

美
「小さすぎて中々つまめないんだけどね♪」

空

「あ、じゃあ。
取っ手替わりにピアスでも付ける？」

美
「うふふ。
それ賛成♪

良かったねー、マゾクリ♪
これで苛めて貰え易くなるね♪」

空
「うおッ！！
クチマンコピストンが激しくなってきた！！」

美
「ああ！！
ケツマンコも凄い！！！

心のマゾスイッチまで入れちゃったみたい。」

空
「あ、また出そう！
ヤバい位の名器だな。

兄貴、全部飲めよ？」

美
「ああ！！！
さっき出したばかりなのに！！！

ちょ！！
締め過ぎ！！！！！

あああ！！！！

マゾクリ、イクよ！！！！」

空
「はぁあんっ！
の、飲めよっ！

兄貴出すぞ！！！」

空
「……あ〜また、全部吐いちまった。

まだ、『ごっくん』は難しいか。

おい、兄貴。
ちゃんと床を舐めとけよ。」

美
「初日にしては大したものだよ。
ねえ、マゾクリ♪
安心していいからね？
これから私がじっくり作法を叩き込んであげるからね♪」

空
「良かったなー、兄貴。
オマエ、美憂に滅茶苦茶気に入られてるぞ。」

美
「それにしても……」

空
「ん？」

美
「お互い、ペニスがギンギンで萎えないねｗｗ」

空
「じゃあ、最後に…
派手なプレイで締めるか。」

空
「おら兄貴、股広げろ。
　……よし。

まずは兄貴の前に立って……
両足を、よっと、抱えて、持ち、上げる！」

美
「駅弁！
クーちゃん格好いい♪」

空
「美憂程じゃないけどね…

じゃあ、兄貴。
今から駅弁ファックの喜びを味あわせてやるからな♪。

んでっと。
チンコを……入れる！！」

美
「あらぁ、マゾクリｗｗｗｗ
オマエ、女に持ち上げられて興奮してるの？

あはははは♪」

空
「でな？
これで美憂も入れるんだ」

美
「どこに？」

空
「こいつのケツマンコだよ。
　美憂が後ろからズブッ！　とね」

美
「えぇえっ！
二本挿し！？
そ、それはさすがに裂けるんじゃない？」

空
「アタシも最初はそうおもったんだけど。
兄貴の淫乱マゾアナルなら、いけるんじゃね？

だって最初から、アタシらのチンコ入ったんだぜ？」

美
「試す価値はありそう♪」

空
「そういう事♪」

美
「マゾクリ♪
オマエ、勝手に死んじゃ駄目だよ♪」

美
「ん……、んんんっ……」

空
「やっぱ無理そう？」

美
「う〜ん、クーちゃんのがぴっちり入って……。
　あ、そうだ。
クーちゃん、亀頭以外を抜いてみて。」

空
「おう」

美
「ここで、ケツマンコ広げて……」

美
「あっ、は、入った？」

空
「おお！
やれば出来るもんだな。」

美
「しかもこれ……
亀頭を兜合わせしてる時よりも、気持ちいい♪

あ～♪」

空
「うん、狭い所に美憂とアタシの亀頭がギュウギュウだから……

くううう～♪」

美
「これ、最後まで入れたらどうなるかな？」

空
「入れたいよな、アタシもそう考えてた」

美
「じゃあ、タイミングあわせる？」

空
「うん、いっせ～の！　でいこう」

美
「うん。」

空&美
「「いっせ～のっ！」」

美
「はぁあぁあんっ！」

空
「くぅうううぅうううぅんっ！」

美
「す、すごいよ
これ……」

空
「ああ、この快感は未知の領域だわ。
駄目だ、意識飛ぶかも…」

美
「このケツマンコ生きてるみたい…」

空
「ああ、美憂の亀頭がゴリゴリする！！！
しかも、ケツマンコがすごく…　　熱い！！」

美
「こんなの、はじめて！！！
あああああ！！！
頭がおかしくなりそう！！！！！」

空
「美憂。
ピストン、楽しもうよ。」

美
「うん。
一緒に……」

空
「あっ、ああっ！！
す、すげえっ！」

美
「な、なんなの！！！
この感触！」

空
「美憂のチンポが、チンポの鼓動が分かるっ！」

美
「ああっ、クーちゃんと私のペニスが、一つになってるっ！」

空
「くぅううぅうっ……、た、たまんねえ！」

美
「ああんっ、クーちゃん、クーちゃんっ！」

空
「うっ、嘘だろ、こんなに早くっ？」

美
「あぁあんっ！　ペニスにかかる刺激が、強すぎますわぁっ！」

空
「だめだっ、美憂っ、で、出ちまうっ！」

美
「わ、私もっ！　クーちゃん、一緒にっ！」

空&美
「「いくうぅううぅうぅっ！」」

美
「ふ〜っ、ちょっと疲れちゃった♪」

空
「ああっ、休憩しないとヤバいな。」

美
「マゾクリは……
気絶？　死んだのかな？」

空
「転がしておけばいいよ。

生きてりゃ起きるだろ。」

美
「ふふ、だよね。」

空
「美憂♪」

美
「あら？
急にどうしたの？
甘えん坊さんスイッチ入っちゃった？」

空
「いや、あのさ……。
　さっき兄貴のケツマンコに二人でぶち込んだ時…
スゲエ気持ちよかったんだけどさ…」

美
「ええ、私も。」

空
「でも、なんつうか……
美憂の顔が見れなくて、寂しかった」

美
「……クーちゃん」

空
「やっぱさ、アタシ、美憂の体温とか息遣いとか感じてる時がさ、一番気持ちいいんだ」

美
「…私も　　…だよ？」

空
「美憂……」

美
「うん。」

空
「あのさ……
アタシ、美憂の嫁になりたい。
もらってくれないか」

美
「うん。」

空
「身も心も美憂の物になりたい。」

美
「…いいよ。
私だけのモノにしてあげる。」

空
「あ……」

美
「可愛いよ。
空子。」

空
「…あン。」

空
「はぁっ、も、駄目……」

美
「ん？」

空
「ね、入れて、下さい……。

美憂様を、もっと感じたいです。」

美
「私も今。
同じ事考えてた。」

空
「あはっ！
はぁんっ！
あっ！　……」

美
「大丈夫？」

空
「う、嬉し過ぎて……
入れられただけで、イっちゃいました♪」

美
「うふふ。
可愛い子♪

ゆっくり動いてあげるから、全身で味わいなさい。」

空
「あっ！　ああっ！　あんっ！　いいっ！
　美憂様っ！　みうさまぁっ！」

美
「空子。
オマエは誰の物かな？」

空
「ひゃんっ！
ひゃっ……

美憂様のものです！！！！！」

美
「ふふふ。
ここがいいの？　」

空
「ああッ！！！！！！」

美
「んー？
ここかー？
ここがいいのー？

んー？」

空
「はいいい！！！！
凄くいいでしゅうう！！！！！」

空
「あ、しゅごい…」

美
「ちゃんと、イケてる？」

空
「はい！」

美
「何回位イッたの？」

空
「え？
に、にか…
んほおおおおおお！！！！！！」

美
「うふふ。
ゴメン、聞こえなかった♪
何回、イッたの？」

空
「ひゃ、ひゃいぃ…
今のでしゃんか…

おほおおおおおおお！！！！！！！」

美
「凄い顔してるよｗｗｗｗ
そんなに気持ちいいの？」

空
「あ、あはっ、あははっ。
　嬉しいです、みゅーしゃまー」

空
「あっ！　あっ！　あっ！
あぁあああああ！！！！

あっ、美憂様っ、みゅーじゃまー！！！！！」

美
「もっと私の名前を呼びなさい。
自分が誰の女か…
ちゃーんと覚えられるようにね♪」

空
「あっ！
み゛！　ゆ゛！　じゃ！　　ま゛！　ッ！！！
わたしはみゆしゃまのものでしゅううう！！！！！！！！」

美
「よーし、いい子ね。
御褒美に私の子供、いっぱい産ませてあげる。」

空
「ひゃっ！　ほしい！
ほしいっ！　でしゅううう！！！！

みゅーしゃまっ！！！！！」

美
「うふふふっ♪
兄妹揃っておねだり上手ね♪

ほら、出すよ！！！
空子！！！！」

空
「あっ！　あっあっ！　ああっ！　来てるっ！
何か来る　なんかくる　なんがぐるうううううう！！！！！！！

おほおおおおおおおおお！！！！！」

美
「うふふ。
空子はイキ顔も可愛いね♪」

空
「あ、あ、あふううぅ…」

美
「無理に起きなくてもいいよ。
マゾクリと一緒に寝てなさい。」

空
「あうあうあ～」

美
「うふふ。
健気な子♪」

空
「えへへぇ～♪」

美
「よーしよし。」

空
「ねぇ。
指輪…　欲しい…　　です♪」

美
「結婚指輪？」

空
「はい♪
交換したい…　です♪」

美
「今？

うーん。
貴金属は実家に置い…

そうだわ、マゾクリ！」

空
「え？」

美
「マゾクリを、二人の婚約記念便器ってことにしない？」

空
「あ、それいい！
かなり嬉しいかもです！」

美
「今日の記念に二人の名前…
刻もうよ♪」

空
「いっぱいいっぱい刻もうね。」

美
「ほっぺたとか♪
背中とか♪」

空
「腹とか♪
額とか♪」

美&空
「それと…」

美&空
「マゾクリｗｗｗｗｗ」

美
「あはははははははｗｗｗｗｗ」

空
「あはははははははｗｗｗｗｗ」

美
「もう、空子ったら浮かれちゃって♪」

空
「美憂様もでしょ♪」

美
「うふふ、嬉しいわよ。
だってこんなに可愛いお嫁さんが、一生私の隣にいるんですもの」

空
「美憂様……」

美
「空子……」

END